

## 令和6年度第2回加西市子ども・子育て会議

日時：令和6年10月31日（金）

10：00～11：40

場所：加西市役所 5階大会議室

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項

### (1)「第3期加西市子ども・子育て支援事業計画」の素案について

○会長 会長としてこれを見まして、うまくまとめていらっしゃるというふうな印象を持ちました。皆さん方のほうで素朴な疑問、確認、提案、こういったところをお示しいただければと思います。いかがでしょうか。

○教育長 実はこの計画の中には、今担当課でありますこども未来課で本来担当すべきことと学校教育課で担当することが、実は非常にごちゃ混ぜになっております。当然あとの評価も含めて、こども未来課のほうで評価していることとなりますので、学校教育課で担当する内容については、この子育て支援計画に入れたいほうが、私は個人的によいと思っています。

子育て支援計画は、加西市の幼児期から主に5歳の子までの子ども支援と学童保育という子どもたちの学童保育をメインにして、それが今現在担当しておりますこども未来課の担当ですので、そこについて考えていくというまず大枠を共通理解した上でやっていくべきかなと思っています。

それが1点と、それともう1点は何年間という計画を立てるんですが、そのときの社会情勢とか市の情勢とか財政状況によって、いろんなことが実際にはかわってまいります。そのときに、例えばこれは計画にあるから絶対しなければいけない、逆にこれは計画にないからしてはいけないというようなことが、よく議論に上がるんですよね。それは、やっぱりちょっと本末転倒だと思いますので、どこかにはやっぱりその状況によって、この計画について子育て会議を開いてちゃんと随時見直していきますよってというようなことも、大枠としては、まずいるのではないかなと、その2点を踏まえて話をさせていただいたほうが、多分いいのではないかなと思っていますので、どうかよろしく願いいたします。

- A 委員 27ページのこども誰でも通園制度の説明を受けたんですけども、70人の子どもたちを確保できるような環境が整っているということですか。
- 事務局 今のところ、私立園4園が実施を協力するということでお伺いしまして、令和8年度以降に国のほうで全国で実施ということになっておりますので、今後施設も増えていこうというところでの見込みを入れて、供給量として見込んでるところです。
- A 委員 今一時預かりをしている施設があるのに、さらにこれをつくっていく必要があるのかっていうのがあります。
- 事務局 一つは国の考え方の中で一預かりというのは、預ける保護者のための制度で、国の言葉を借りるなら、こども誰でも通園制度は就労の規定がなく、あと子ども自体が保護者がいろんな子育てに関する知識を持たない中で、一緒に通園もできるというようなことから、子どもたちの制度というふうに国は思っておりますけれども、現実的には一時預かりとの違いが明確に出るところは少し分かりづらいところがあるかなというふうに思います。
- 会長 まだちょっと腑に落ちない回答だと思いますけど、ご質問ありがとうございました。私も今日テレビ見ましたし、今話題で先取りをしておるんだなと思っておりました。
- 教育長 7ページの切れ目ない支援のところの文章で、身近な地域で安心して子育てができる環境を整えるためというところがあるんですが、保育制度に関しては、特に希望したところがだめであれば、別のところを紹介しているような現状もございまして、正直申し訳なくて、この文章があると非常に心苦しいです。要するに、身近な地域とか地域のニーズに応じてというのはもう文書の中から削除したほうがいいのかなど。地域のことをないがしろにするわけじゃないけども、やはり加西市全体のことを考えると、さすがに身近な地域といったときに、だいたい皆さん小学校区とか、その近くを思い浮かべられることが多いと思うので、ちょっと厳しいかなと思ったんですがいかがでしょうか。
- 会長 兵庫県でも生涯学習審議会を随分長くやりました。そのときにこの地域とは何かという議論は当然出るんですね。
- マッキーバーという研究者がいて、地域というのは物理的、空間的エリアを必ずしもいわない。広かろうと狭かろうとそこに住む人たちの気持ちの心のつながりが出てくるときに、地域が地域になってくるんだと。人々の心理的つながりがあってこそ地域が地域として成熟していくんだという考え方です。
- 事務局 いわゆる地域という言葉だけでいくと、空間的、平面的な部分の物理的な空間を指すかもしれないですが、一方でいったらコミュニティという概念の中で、要は人と人とのつながりを地域というふうに理解すれば、空間的つながりではなく

て、関係性のつながりも地域ということの解釈もできるということでもいいんでしょうか。

○会長 地域をよくコミュニティと言いますが、物理的な空間的なものはコミュニティという言葉はふさわしくないかもしれません。エリアなのかもしれませんね。プレイスとかエリアとか。

○事務局 一般的にこの地域という言葉になると、エリアになりがちだという理解です。あと、地域という言葉にどういう概念を持たせるかというところで、注釈をつけるという方法もありだと思いますので、検討させていただきたいと思います。

○教育長 教育・保育に関する加西市としてのビジョンは、やっぱり書くべきだなというふうに思っております。

加西市では、3C次世代型人材の育成を学校教育を中心に一つの大きな目標としてやっておりますので、これを幼児教育の中でも行っていきますよという、大きなビジョンを持って子育てをやっていくという、なんかそういうストーリーは描いたほうがいいのかなどと思いました。

それと、本市で学校教育の中心に使っているのは、加西の教育3本の矢ということで、加西BASE、加西STEAM、加西GLOBALというのを使っていますので、それを参考として書かれるのはいいと思うんですが、3C次世代型人材の育成については削除をお願いしたいと思っています。

○教育長 全部ここの文章って、ほぼ何とかのためにこうしますっていう流れになっていて、それでいいと思うんですが、私立園との連携と支援策の充実のところだけ、最初に2行ほど思いが入ってるんです。ほかとの整合性に非常に違和感があるので、文脈として統一されたほうがいいのかなど。

ほかにもありまして、そういう言葉的なものは統一しておいたほうがいいのかなど。

○教育長 16ページのスクールサポーター事業は、こども未来課でやっている事業ではないので、これはもう載せない方がいいと思います。学校の中のことについては、例えば養護教諭やスクールカウンセラーというのは、これは小学校の中でのことなので、こども未来課でコントロールすること難しいと思いますので、この辺の部分とか、一番下の不登校児童生徒への支援の推進も、園の子どもたちに対してこうする支援という視点で書かれたほうがいいのかなど。

○A 委員 今の教育長の話でいくと、一番最初に多様な保育ニーズに応えるためのサービスを提供するとともに、次のところに質の高い公教育を推進しとあって、この公教育というのは、どのことを指しているのか。

○事務局 基本的にこの子ども・子育て支援計画を考える上においては、18歳までこども基本計画の絡みもある中で、全体的な市の子どもの安全・安心という部分の計画として落とし込むべきかなというようなことで考えさせていただいて、こど

も未来課の所管事業ということだけではなく、国のほうの子ども・子育て支援計画上で求められている福祉事業的なところ、虐待である部分であるとか、子どもの保育サービスのみではなく、地域での子どもの見守りに対してだったりってところも含まれておりますので、地域の安全・安心に関わる部分について落とし込んで子ども支援計画として形をお見せするほうがいいのかなというような感じで作成しましたが、少し検討させていただきます。

我々、公教育ということに関しては、学校に関わる安全・安心部分、地域での見守りだとか、それから学校の中での相談の部分の充実という部分等までは含めているというふうには思っています。

- 教育長　それぞれ自分たちのできる範囲の中でやっていったほうが、どこの部署も力を発揮できるかな。ちょっとそういう思いも正直ありますので。それをここに書くのにどうなのかなっていうのもあるんです。18歳までを全部網羅して書かなきゃいけないんだったら、ちょっと今のこのメンバーでは難しいですね。学校関係が全くいらっしゃらないわけだから。子育て計画についてはある程度限定した形でされたほうが、實際上動きやすいのかなというところがあります。
- 会長　教育長のコメントは総花的ではなくって、少し脇を固めてやったほうが一歩二歩踏み出せるんじゃないかみたいなお意見だと思うんですね。
- B 委員　9ページの4番、計画の進行管理となっているんですけども、「計画の進行管理について庁舎関係各課を中心に」と書いてあるんですね。じゃ子どものためにいいことは、教育部局も入ってきなさいよ、生活課とかそういう課があったら入ってきなさいよというのが、この子ども・子育て会議やと僕は思っているんです。じゃ、こども未来課だけでつくる子どものいいことなんであれば、子ども・子育て会議は必要ないわけですよ。

ここに書いています「庁内関係各課を中心に」ということは、うちの課のやっていることは、こんなに子どものためになるよっていうのを各課が責任をもって一覧表にされたらいかがかと思います。こども未来課さんが全部持って、それにあふれたところはうちの課の担当じゃないからしませんっていうことを打ち出すであればいいと思います。じゃなくて教育委員会が持たれているやつで、小さい子どもたちにいいことがあるよ、乳幼児期にとっても有用だよっていうやつはもちろん入れるべきで、その担当がたまたま教育委員会になるだけやと思うんですね。

市民さんは、教育委員会やからとか、こども未来課やからって見ないです。加西市として見えていますよね。

次に具体的施策の進行状況について把握するとともに加西市子ども・子育て会議にて施策の実施状況等の点検評価し、これは第2期のときにされたんですか。

- 事務局　毎年度は点検できてないですが、子育て計画2期の終了に伴って、その

実施状況は各課には確認をして、どのような取り組みをしたかというのはやりました。

- B 委員　今でこそPDCAって、もうちょっと古いかなと思うんですけども、このプランを回していますよというのを資料に入れるべきやと思います。そしたら第1期ではここまでできて、第2期ではここまでできて、じゃ第3期ではこのできていないところをどう改善していくのかっていうのを資料として第3期に生かすために資料というものが必要やと思います。

次にいきます。その結果を公表するとともに。公表がされてないですよ。

- 事務局　公表はできていないです。

- B 委員　計画の実施状況の点検評価というのを我々にさせていただいたら、点検していますよという後ろ盾というか、判子が見えてくるのかなと思いますので、こちらの一覧表をできたらつけていただきたいと思います。

- 会長　学校教育なんかでは外国にルーツじゃなくて、外国とつながりのある子どもたちに対する配慮をどうしていくかみたいな形で、例えば日本の国籍を持っていても、お父さんお母さんの仕事で、ずっと幼児期にドイツに行っていて、日本に戻ってくると日本語が使えない、文化が違ふと。そういう子どもたちは日本語はしゃべれないので、バイリンガルになってしまうかもしれない。そういうこととは違うんですか。

- 事務局　現状、海外赴任で長期にわたって海外で生活されて戻ってこられたという形の子どもは少ないです。やはり外国籍で日本に来られている、最近多いのはベトナム関係の方々が多いんですが、一方で海外生活が長かった日本国籍の方になると、乳幼児期等の時期が過ぎて小学校とかという概念になってくるかなというような印象は受けています。

- 会長　見出しの中で、安心だけで全て問題解決されるかっていうとそうでもない。タイトルだけからするとなんかふわっとして、間違いじゃないと思うんですけど、安心にとどまってしまう施策じゃないと思うんですよ。文章表記術みたいなところがあるかもしれませんが。

安心だけじゃなくて、子どもたちが着実に保育を通して育っていきって道筋を辿らないといけない。子どもたちが安心という安定した心もちの中で一歩踏み出していける、そういったところをサポートしていくような社会システムというのが求められてくると思うんですよ。中身を見ると、具体的にサポートしていきっていうところを示してありますので、誤解はしないと思いますけど。

- 事務局　安心を感じていただけるようなことを目標にしておいて、その具体的な施策としては、こういうことに取り組みますというところで、まとめさせていただけたらと思っております。

- C 委員 10ページの評価指標による検証のところで、評価指標を『子育てに不安や負担を感じないと答えた人の割合』としてしまうと、何かとても評価しづらいんじゃないかなと感じたんです。このアンケートの質問が教育に不安がないとか、お金に不安がないとか、もう少し細分化したほうが5年後にまた検証するときの数値が分かりやすいんじゃないかなと思いました。
- 会長 伝え方、分かりやすさの可視化をするというか、そういうご意見だったと思います。
- 事務局 全体的なところで評価させていただいて、その資料的なところで整理をさせていただくということを検討させていただきます。
- D 委員 子育て世代からすると、目立つのが保育料無料ゼロ。とても助けられているんですが、それ以外にも保育園に通わなくても子育て支援の場があったり、誰でも通園制度があったりといういろいろな制度ってたくさんある。そこが見えにくい状況にあるってというのは、私は子育てしていてすごく感じるんですね。だから利用を促していけるような動きっていうのも併せて考えていかなきゃいけないのかなというふうに感じました。
- 会長 施策の円滑な実効性のためには、やはり肯定的に取り組みを市民の方々が受け止めていけると、実効性は非常に質が高いものになっていくだろうというふうなご意見かもしれませんね。
- 事務局 子育ての不安、子どもの発達なんかを相談できるような機関も設けております。いかにそれを市民の皆さんに知っていただくか、今後も研究に努めていきたいと思っております。ありがとうございます。
- A 委員 学童支援員がこの事業計画を読んだときに、私たちって何やろうねって思うん違うかなと私は思っているんです。というのは、学童の支援員も年間を通して研修も行い、資格をとるために研修に出かけていくってということするんだけど、そういうようなことは一切出てこないのに突然17ページに、多様な教育・保育ニーズに対応できる体制の充実のところ PON と出てくる。
- ところが、学童に通っている子どもたちの人数ってというのは、北条小学校1校よりも多くの子どもたちが通っているんですね。支援員の数っていうのも60人を超える数です。そういうような大きな組織なんだけれども、それだけ親のニーズも高まってきているにもかかわらず、資質向上に関することも出てこないし、それが残念かなって思うだろうなって。
- ところが、学童の現状というのは、本来は就労支援の保育っていうことを目的しているんで、支援員にそんな資格とか、研修なんかせんかっていいやろうと思われているかもしれないけれども、現場は指導を入れた教育を行っていかないとできない状況があるということが分かっていただけのような、支援員のやりがいになるよう

な文句をちょっと入れていただけたらありがたいなという気持ちです。

- 事務局 計画の中にうたうことによって支援員、指導員さんたちがやりがいをさらに持っていただけるということであれば、保育環境の発展につながっていくと思いますので、また相談させてください。

**【その他】**

- 会長 次回はどのような予定にされてますか
- 事務局 今日いただいたご意見をもって修正をさせていただいて、12月にパブリックコメントをさせていただく予定としております。また、そのパブリックコメントにていただいたご意見を検討し、来年の2月ごろに3回目の子ども・子育て会議を開催して最終確定といたします。その後、3月議会において議決を受けるという流れになります。

**5 閉会**

次回 令和7年2月